現場レポート

シドニー事務所

JETAA オセアニア地域会議 2025
～オセアニアから広がる日本との懸け橋～

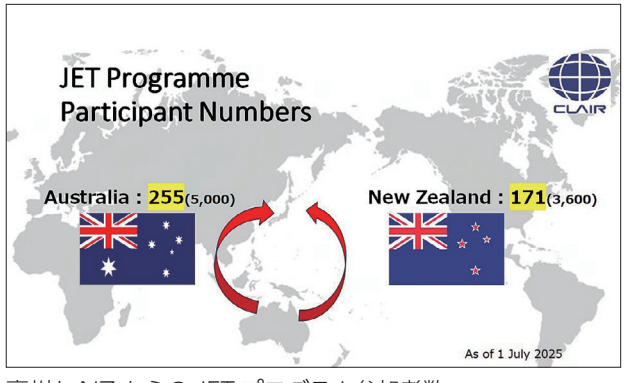
（一財）自治体国際化協会シドニー事務所　所長補佐　西坂　なつき（岡山県派遣）

オセアニア地域の JET プログラムの歩み

1987 年に始まった JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド（NZ）の４カ国からスタートしました。オセアニア地域はプログラム開始当初からの歴史を持ち、2025 年７月１日時点での累計参加者は、豪州から約 5,000 人、NZ から約 3,600 人に上ります。

JET プログラム終了後も日本との懸け橋として活躍し、プログラムのサポートを行うのが、JETAA（元 JET 参加者の会）という同窓会組織です。オセアニア地域には、豪州５支部、NZ ３支部の計８支部があり、2025 年末時点で会員数は約 3,600 人に達しています。

各支部は、現地の日本祭りへの出展による JET プログラムの PR 活動、JET プログラム応募希望者や帰国者を対象に自身のキャリアや経験を語るネットワーキングイベントの開催、現地日本人コミュニティーとの交流会の実施など、幅広い取り組みを展開しています。



豪州と NZ からの JET プログラム参加者数
（2025 年７月１日時点）

JETAA オセアニア地域会議概要

2025 年 11 月１日と２日、豪州の首都キャンベラにて、JETAA オセアニア地域会議 2025 が開催されました。この会議は年に一度、豪州と NZ の各支部とシンガポール支部の代表が一堂に会し、各支部が抱えている共通の課題や今後の活動方針について意見交換をする場となっています。

今年は、会議プログラム冊子に各支部の活動報告書が掲載され、各支部の取り組みや課題、今後の展望などが事前共有されました。これにより、会議当日は各支部からの報告時間を省略し、参加者同士の議論や意見交換により多くの時間が充てられるなど、効率的に会議が運営されました。

会議参加者の集合写真

意見交換で見えた価値と課題

会議では、JET プログラムを通して得た知見と価値、自身の人生やキャリアに与えた影響を参加者同士で共有し、今後のプログラムをサポートするための意見やアイデアが議論されました。

キャリアに与えた影響では、JET プログラムでの PA（取りまとめ団体アドバイザー）の経験が評価され、帰国後に面接なしで就職できた参加者や、ALT（外国語指導助手）としての教育分野での経験をきっかけに人材管理部署でのキャリアを選択した参加者もいました。

また、今後の JET プログラムへの応募促進に向け、給与や生活費など日本での生活に関する金銭面の不安

を払拭するためのより詳細な情報提供、現役 JET 参加者や応募希望者に対して JET 経験者が関与できるメンターシップ制度の導入、困難への対処事例やプログラム終了後の幅広い可能性を示す JET 経験者の経験談のとりまとめなど、JET 経験者ならではの具体的な提案が次々と出されていました。

会議での意見交換の様子

広がるキャリアの可能性

2000 年代初めに ALT として JET プログラムに参加したグラント・バートン氏による基調講演では、JET プログラム終了後の日豪両国でのホテル業界、広告業界、行政機関など多岐にわたるキャリア形成には、JET プログラムへの参加経験が大きく影響したと語られました。学校行事や地域の祭りへの参加を通して学んだ異文化理解や共感の重要性が、今もなお、広い視野を持ち学び続ける姿勢の礎となっているとのことであり、JET プログラムが参加者の人生や価値観に与える影響の大きさを改めて実感する内容でした。

また、バートン氏の講演のほか、在オーストラリア日本国大使館による JET プログラムの説明や JETAA によるパネルディスカッションは、応募希望者向けにオンライン配信されました。

バートン氏による基調講演

JETAA との連携強化に向けて

当事務所は、各支部の特色や地域性を生かした活動を支援することが重要と考えています。JETAA は、JET 経験者が日本を離れて母国などに帰国した後も、日本との懸け橋となる貴重な存在であり、当事務所としても、オセアニア地域からの現役 JET 参加者や JET プログラム終了直後の経験者に対する支援に当たり、今後、オセアニア地域の JETAA との連携を深化させたいと考えております。

このような観点から、当事務所は会議において、他国における JETAA の活動事例を紹介するとともに、今後の連携の方向性について、参加者との意見交換を行いました。また、クレア本部から出席した参与からは、プログラム終了後の経験者の情報把握の重要性や、JET プログラムに関する最新の動向が共有されました。

クレアシドニー事務所のプレゼンの様子

今後の展望

JET プログラム参加者は、日本に興味と関心を持ち、日本で働くことを選んだ貴重な人材です。さらにプログラム終了後の新たな生活や環境の中でも JETAA として精力的に活動を続けるのは容易なことではありません。今回の会議で活発に意見を交わす姿から、日本との懸け橋であり続けることと、次の世代の JET 参加者へのサポートに対する JETAA の真摯な想いを感じました。

2026 年には、JET プログラムは 40 周年を迎えます。この節目の年が、オセアニア地域をはじめ、世界各地の JET プログラムの関係者にとって意義深いものとなるよう、当事務所としても JET プログラムへの支援を強化してまいります。また、JETAA 支部間での知見やアイデアの共有の促進を後押しするとともに、オセアニア地域の JETAA と当事務所との連携をより一層深化させ、プログラムのさらなる発展を目指してまいります。